

陸参考資料第二十八號

七月二十一日  
陸軍省新聞班

滿洲國に於ける治安恢復の實況に就て

59

治安の確保は云ふまでもなく諸政改善の基礎である。滿洲國は建國と共に治安の維持を大眼目として之に全力を傾注して其恢復に努力し来た。即ち大同元年の豫算編成に當りては財政の見透のつかなかつた際であつたにも拘らず治安の維持の爲には財政上許す限りの費用を捻出したのである。大同元年度歳出(追加支出を含む)合計一億三千二十五萬六千四百(國幣)の内、軍政部經費四千二百四十二万円、警察費一千二百六十三萬八千四百、合計五千五百五萬八千四百が治安維持費に計上され、總歳出額の約四割二分を占めたと云ふ事實を見てもこの点首肯出来るであらう。

顧みれば建國直後に於ては、各種の匪賊が隨所に跳梁して事實主要都市と之を連絡する鐵道沿線以外の土地は大部分彼等の横行を禁じ得なかつたと云ふ状態にあつた。然るに建國以來一年有餘を経た今日に於ては、日本國軍の献身的努力と滿洲國軍隊及警察隊の之に應ずる動作に依つて顯著なる成績を示して居る。

此處で一寸断つて置くが滿洲に於ける匪賊の跳梁は夏に多く冬は少いのである。夏期高粱繁茂の時季は、彼等に冬は氷原化し身をかくす處なく且頗る討伐し易いのである。故に長江の流に時期を別つて干満の差有るか如く、滿洲の匪賊も時季を別つて消長するのである。従つて匪賊数の比較は此点に留意して考へねば無意味である。滿洲に於ける從來の例に依ると夏の匪賊数は大体冬季の匪賊数の約三倍に當つて居る。故に現在全滿洲の匪賊を合算して四五萬位とすれば夏には約其の三倍位になる可能性があると見て差支ないのである。

尚序に云へば既往一年有餘の實績に徴し、滿洲に於ける匪賊を類別すると大体五種に區別される。即ち

(1) 政治的匪賊、即ち馬占山、丁超、蘇炳文の類である、簡  
單に匪賊と言つて置く  
(2) 職業的匪賊、夫々大小の頭目に統率せられ匪賊を  
業となす徒輩である、簡單に職業と言つて置く  
(3) 民匪、良民の物資缺乏の爲に匪賊化するものである  
(4) 宗教的匪賊、大刀會とか紅槍會とか云ふ手合であ  
る、簡單に宗匪と名付けて置く  
(5) 次は雑多な匪賊、即ち上述の様な旗色鮮明な連中  
でなく良民が物資缺乏の爲に匪賊化したのや、又強  
制されて匪賊になつたと云ふ様な部類を總稱した  
もので、假に雜匪と記憶されたい  
既に周知の如く現在では政治的匪賊は總て掃蕩され  
て了つた、昨年馬占山討伐に際し折柄の大雨の爲に滄海  
と化した北滿の廣野に於て本庄軍司令官閣下が二度ま  
でも現地に赴かれて全軍の將卒を總べられた事や、武藤  
軍司令官閣下が軍司令部を錦州に進められ、突に疾風迅  
雷耳を掩ふ暇なき速かさで熱河全省を席卷し之を平定  
せられた事は、今尚讀者の記憶に新たなる所であらう  
斯くして所謂政匪は一つに皇軍將卒の努力により、今や  
全く全滅に歸してしまつたのであつて、滿洲國官民一同  
の深く感謝致して居る次第である、但し職業的匪賊、  
宗教的匪賊、雜種匪賊等は一時に之を全滅する事は困  
難であるが此等も亦漸次消え行くべき運命を持つて居  
る、今年の高粱繁茂期に對しては日本軍が要所に分散  
配置の姿勢をとり、滿洲國軍隊、警察隊との統制連繫を充  
分密にして之に善處する手配が整ひつゝ、あるから鮮か  
なる成績が擧げらるゝ事と信じて居る  
次に滿洲國政府として既往一年有餘に亘り治安恢復  
の爲に如何なる努力を拂つて来たか、又その効果が如何  
にあらはれて来たかと云ふ事を各關係部局に就て言つ  
て見たい  
先づ軍政部及民政部警察の活動については日本國軍  
と協力して、或は北滿に或は東邊道に或は熱河に所謂政

匪討伐に従事せる以外客年の秋清郷委員会の設置を提  
唱して軍政部が中心となつて之を組織した。即ち匪賊  
の討伐、招撫、帰順、其他之に伴ふ行為を敏速に時を  
失せず處理する機関であつて中央清郷委員会、各省清郷  
委員会、各縣清郷委員会と云ふ様に中央より末梢神經に  
至る迄統制連絡ある機関となし大いに努力して来たの  
である。

民政部警察方面の施設に就て云へば

(1) 警察官の素質改善

警察官の幹部養成機関を中央に設置し既に先般六十  
名の卒業生を出し、近く更に百名を養成する事になつ  
て居る。又警察官中優秀なるものを選抜して日本に  
留学させて居る。

(2) 警察官の待遇改善

(3) 警察官の統制

(4) 國境及海邊警察隊の設置

(5) 警務指導員分駐

等により窮餘の爲に往々にして匪賊と化するを防ぎ統  
制連絡関係を改善し、不逞分子の入國武器彈藥の大量な  
る密輸を防止し、又は威力を發揮する様指導する等多  
大の努力をなしまつたのである。尚此外補充制度たる  
自衛團の改善補導保甲制度の採用等に意を用ひて来た  
尚此の他各種救済事業例へば良民の止むなく匪賊化  
したものに對してはこれに土木事業に従事せしめると  
か又は帰農せしむる事に盡力してやる等生活の根據を  
與へ安定せしむると云ふ方にも力を竭したのである。  
斯くの如く軍警方面より一致協力して治安の恢復に努  
力した結果著しく改善の跡を示して来た次第である。  
今之を民政方面交通方面文教方面に現はれた結果よ  
り云ふならば大体次の如き成果を獲得した。  
先づ民政方面に就いて云へば、治安の恢復に伴つて地  
方各縣には縣事官及屬官が殆んど大部分の縣公署に  
入つて縣治の実績を擧げて居る。

次に財政關係に於ては

税金徴収の状況に治安關係の良否は極めて明瞭に現はれて来た、勿論此處に云ふ税金とは内國税の事である、財政部に於ては全國の税捐局を大體次の如く三種に分類して治安狀態の反映を見てゐる、即ち今之を財政部の調査によつて見るに

一、毎月の徴収額を正確に送金し監督廳に於て完全に統制し得る税捐局を甲とし

二、毎月の送金は正確ではないが兎も角徴収事務を扱ひ得る税捐局を乙とし

三、消息全く不明の税捐局を丙として之等の改善の状況を見ると次の如き相貌を描いてゐる

甲	二九	七六	八四
乙	三四	二四	二一
丙	七八	四二	三七

右の中奉天省の如きは最も成績顯で元年九月末甲は僅かに七局に過ぎなかつたが本年四月末には三六局に激増し丙が二十局もありしものが皆無と變じ僅かに乙二局を殘すのみとなつた

(2)次に中央銀行關係に於ては滿洲國領域内の中央銀行分、支、行の總数は分行四支行九十五辦事處十六合計百十五である而して治安の良否より各支、行の開業休業の數に著しい増減を示す次第である

大同元年十二月に於ける狀況は

開業銀行數	六九行
開業不能即ち閉店數	四八行

であつたが大同二年現在に於ては

開業支行數	一〇三行
開業不能數僅かに	一二行

と云ふ狀態で如何に治安が改善されたか、明瞭である次に交通關係主として道路建設事業の進捗成績によ

リ治安改善の跡を眺むれば全計畫路程三千五百四十四  
 キロの中、中止中なりし路程二千二百二十七キロ即ち  
 三割四分強が匪害の爲に測量さへも困難な状態にあつ  
 たが本年五月末の現在に於ては

既に地上に着手せるもの 八一一料  
 七の〇以上竣工せるもの 四七五料  
 測量完了し地上せんとするもの 六五九三料  
 計畫せるもの 六二七料  
 計 四、五〇六料

にして右の中匪賊の爲中止し待機中のものは嫩江、大興、  
 河間、の二八〇料と、敦化、寧安、間の一、九六料及安東、大孤山、  
 間、七五料中の四九九料の三線のみである、其他の個所  
 に於ては匪賊の出没により工事を中止し又は測量を待  
 機せしむるか如き状況は殆んどなく跡を絶つに至つた  
 右の建設工事が無事進捗して居るものの中には治安状  
 態の最も不良であつた熱河全省の道路があり、懷德、梨樹、  
 法庫、或は通化の附近、莊河、城子、曠間、農安、扶餘、間、  
 佳木斯、三、姓、間、寧安、海林、間、訥河、嫩江、間、等、昨年迄は  
 匪賊の最も猖獗を極めた地域である事は注目し値する  
 最後に文教方面より治安状況を視察するに建國道後よ  
 り今日に至る間に於ける學校の復舊状況につき文教科  
 調査に基いて言へば次の如き足取りを示して居る

甲 全國の実業學校開校数 大同二年二月調査  
 大同元年十月調査 四二  
 已開校 五五  
 未開校 一三

乙 全國師範學校開校数 大同二年度 八五校

丙 初等學校開校数 大同二年四月調査 八〇校  
 奉天省 一萬八百校 中五千四百二十四校開校

黑龍江省 六百六十七校 中四百一校開校  
 以上の様に調査が區々で就學兒童数の如き無数となつ  
 た 詳細なる数に就ては未だ統計的數字がない為に遺

憾乍ら茲に明確なる詳述が出来ない、要するに一時は殆ど全滿に亘つて閉鎖された學校が昨今では兎も角も以上の如き開校救済を示してゐる事は治安状況の著しい恢復を語るものであると信ずる。

要之に治安恢復の状況は略々前述の様な次第である。記述は極めて簡單ではあるが滿洲國の治安恢復が確實なる足取りを以て進みつゝあると云ふ事實は以上の記述によつて推察されるであらう。滿洲國の領域は周知の如く廣大である、直に匪賊を全滅して關東州内の如き情況に置く事は素より困難と言はねばならない。サリ乍ら鐵道の建設有線無線の電信電話網の擴充、航空路の發達等によつて治安の普及は急速度に進行するものと確信する。未開の地が開けて虎狼の数が減少する様にやがて滿洲國內に匪賊が安住する地がなくなつて来る事と思惟する現在の治安状況を地理的に見ても匪賊蠢動の兆候ある地方は概して呼海鐵道、北鉄南線、滿鉄幹線を以て東西に劃するならばこの線の東半部が悪いのである、即ち山岳地帯こそ彼等の安住の地域なのである。されば文化の普及と共に早晚影を没すべき運命にあると論断し得るのである。

滿洲國は建國第二年に入り北滿に於てはロシアより北滿鐵道買収方を申込まれてゐる一方熱河は平定し北支に於ては日支兩國停戦を為し何となく外壁が固りつゝある如き感が抱かれる。斯くして滿洲國の治安が内外各方面より安定せば諸般の制度は漸を追つて整備せらるゝ事と堅く信ずるものである。